

講 義 要 項

授業科目		国際看護		担当者	米田 智美
区 分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前/後
	1 単位	15 時間	講義		3年次・後期
授 業 目 標					
国際的な視野から健康課題や看護問題を考えることができ、国際社会の中で看護活動ができる基礎的能力を習得できる。					
単元名	目 標	内 容	時間	単位	授業方法
1. 国際看護学に求められる視点	1. 国際的な視点から保健・看護の現状を学び、国際看護の概念を理解し、国際的視野から看護専門職としての役割と連携について考える機会とする。	1. 世界の健康問題の現状 2. 国際看護学の定義 3. 国際看護学の対象 4. 国際看護学に関連する基礎知識	2		講義
2. グローバルヘルスと国際保健医療協力	1. 国際活動の概念と意義、基盤となる考え方や国際活動で求められる看護職の役割を理解できる。	1. 国際活動の概念・意義 2. 国際活動の基盤となる考え方 3. 国際活動で求められる看護職の役割	2		講義
3. 国際看護の理論	1. レイニンガーの看護理論「文化的ケア理論」の概念を理解できる。 2. 自文化の理解を通して見える異文化を理解できる。	1. 異文化看護の概念 レイニンガーの看護理論「文化的ケア理論」 2. 自文化・異文化	2		講義
4. 社会的健康格差と健康目標	1. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因を学び、事故防止について考えることができる。	1. 社会的健康格差 1) 開発途上国の健康 2. 社会的健康に応じた目標	2		講義
5. 国際協力活動と看護	1. 国際協力活動の実際を理解できる。	1. 国際協力活動を支える国際機関や国際協力の仕組み 2. 国際協力活動の実際と看護が果たす役割 3. 政府開発援助<ODA>を通じた開発途上国援助	2		講義
6. 日本と諸外国の看護制度と事情	1. 諸外国の看護制度について日本と異なる特徴的な仕組みを理解できる。	1. 諸外国の看護制度 2. 日本の看護制度との違い	2		講義
7. 国際医療・看護実践	1. 外国人対象者の文化社会的多様性を考慮した看護について理解できる。	1. 国際社会における看護の対象 1) 在留外国人 2) 在外日本人 3) 帰国日本人 2. 外国人対象者の文化社会的多様性 3. 外国人対象者への看護	2		講義
修得試験			1	1	

参 考 文 献 等	<p>1. 系統看護学講座 看護の統合と実践（3）災害看護・国際看護学，医学書院。 2. 配布資料</p>
評 価	<p>1. 単位修得試験は、レポート評価（30点）、客観試験70点の100点満点、60点以上を合格とする。</p>
備 考	<p>実務経験：台湾の病院での勤務、日本の病院における外国人患者（中国語文化圏）の医療通訳としての勤務経験を生かし、医療現場における異文化理解、国際的視野に基づいた授業を行う。</p>